施策の評価シート（令和５年度分）

1　計画における位置付け

政策体系	総合計画	目標	06	魅力と活力を生み出すまちづくり		
		基本政策	17	交流人口の拡大	管理コード	061748
		施策	48	観光の振興	本冊ページ	104
	関連個別計画		津市過疎地域持続的発展計画			
担当部局			政策財務部、商工観光部、都市計画部、ボートレース事業部			
施策の内容（番号）			151	～	153	

2　「施策の内容」の総合評価と今後の方向性

番号	施策の内容	「施策の内容」の総合評価 選択区分	今後の方向性 選択区分	担当課
151	歴史・文化、自然、温泉などの資源を有機的につないだ観光コースや体験型観光など、多彩な資源の活用と新たな魅力の創出を図るとともに、関連団体や民間事業者が持つ強みを活かして、「ひと・もの」両面からおもてなし環境の充実に努めます。	A	①	観光振興課/地域振興課（美杉）
152	マスメディアやSNSなど、時代に即した情報発信を通じて、本市を代表するイベントへの集客、インバウンド観光やMICE誘致など、国内外からの誘客を促進し、交流人口拡大に向けた取組を進めます。	B	②	広報課/観光振興課/経営管理課
153	三重県や周辺市町との広域的な取組をはじめ、関係団体や民間事業者との観光分野における連携の強化に取り組みます。	A	①	観光振興課

※「施策の内容」の総合評価…A=80点以上、B=60点以上80点未満、C=40点以上60点未満、D=20点以上40点未満、E=20点未満
※今後の方向性…①=効果的な事業構成であるため、方向性を維持、②=概ね効果的な事業構成であるが、一部見直し等の余地がある、③=あまり効果的な事業構成ではないため、見直しの余地が大きい、④=事業構成に問題があるため、抜本的な見直し等が必要

3　「施策」の総合評価

	区分	選択区分	総評（施策の進捗状況や効果等を端的に記載）
「施策の内容」の総合評価を根拠とした「施策」の総合評価	A　80点以上 B　60点以上80点未満 C　40点以上60点未満 D　20点以上40点未満 E　20点未満	A	津駅前観光案内所における観光資源の紹介や観光ボランティアガイド団体が連携するネットワーク活動を実施し、いずれも前年度を上回る実績となりました。津花火大会や津まつり等のイベント開催に対する補助を行い、いずれも前年度を上回る来場者数となったほか、名松線を観光資源とした沿線地域の魅力づくり事業・魅力発信事業、ボートレース津へのグレードレースの誘致、津市観光協会のホームページリニューアルによる利用者の利便性向上などによって、観光の振興に向けた取組が進みました。なお、コンベンション開催支援等事業については、交付実績はあるものの、新たな交流・関係人口の増加につながっていないとの判断から、令和6年度から廃止としました。

※総合評価は、「施策の内容」の総合評価をポイント化したものをベースに自動的に判定しています。

計画期間における達成状況

年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度	令和8年度	令和9年度
総合評価	A	A	C	C	A	A				

※計画期間である平成30年度（2018年度）から令和9年度（2027年度）の本施策の内容に関する推移を示します。

施策の内容評価シート（令和5年度分）

1　計画における位置付け

政策体系	総合計画	目標	06	魅力と活力を生み出すまちづくり		
		基本政策	17	交流人口の拡大	管理コード	061748151
		施策	48	観光の振興	本冊ページ	104
	関連個別計画		津市過疎地域持続的発展計画（令和3年度～令和8年度）			
担当部局			商工観光部、都市計画部			
施策の内容（第2次基本計画）※目指す方向性・各事業の実施により期待される効果			151	歴史・文化、自然、温泉などの資源を有機的につないだ観光コースや体験型観光など、多彩な資源の活用と新たな魅力の創出を図るとともに、関連団体や民間事業者が持つ強みを活かして、「ひと・もの」両面からおもてなし環境の充実に努めます。		

2「施策の内容」に係る主な事業の評価（事務事業評価）

番号	事業名	担当課	事業の内容	事業の目的		事業の評価		事業の振り返りとこれから（実施評価、事業評価、今後の方向性を選んだ理由）
				効：事業の実施により直接的に表れる効果		◆ 当初の事業実施計画	実施評価	
				誰：誰のための事業か		◇ 事業評価の主な視点	事業評価	
				何：何のための事業か		決算額（千円）	今後の方向性	
151-1	観光ボランティアガイドネットワーク活動支援事業	観光振興課	観光ボランティアガイド団体が相互に連携するネットワーク活動に対する補助	効	各ガイド団体間の連携強化、ガイド技術の向上を図る	◆ 補助1件	◎	ガイド案内人数26,755人は昨年の20,661人を上回った。ガイド募集を行い新たな人材を確保、育成することで、今後も継続的に質の高いガイド（案内）の提供を目指す。また、ガイド団体間の連携等を継続し、おもてなし意識の向上、ガイド能力の底上げに向けた取組を継続する。
				誰	各ガイド	◇ ガイド案内人数	◎	
				何	ガイド技術及びおもてなしの向上を図ることにつながる	3,100（千円）	現状維持	
151-2	津駅前観光案内所運営事業	観光振興課	津駅前観光案内所運営業務の委託	効	市内の観光地等の情報を容易に得ることができる	◆ 季節ごとに観光資源を重点的に紹介するイベントの実施	◎	案内者数11,534人は昨年の10,782人を上回った。電話及び窓口での案内のほか、観光資源を紹介するイベント（企画展）を実施し、来場者に来訪のきっかけを与える。津駅を観光の起点とする来津者が案内所を利用するように案内所の存在を周知し一人でも多くの来津者へ観光地の魅力を伝える。
				誰	観光客（市内外の人々）	◇ 案内者数（電話含む）	◎	
				何	市内の観光地等を訪れるきっかけづくり	10,142（千円）	現状維持	
151-3	名松線利活用関係事業	地域振興課（美杉）	名松線沿線地域の魅力づくり事業及び魅力発信事業の実施	効	名松線を観光資源として地域団体の活動、地域の活性化が促進される	◆ 補助4件	△	名松線沿線地域の魅力づくり事業補助金については2団体が申請し、名松線の利活用を促進する取組に対し支援を行った。令和5年度は利用促進のためのイベントに271人が参加した。また、沿線の魅力を伝えるための写真集を乗客を中心として配布し、名松線の知名度向上に寄与された。今後も引き続き支援を続けることで、観光客誘致を図る。
				誰	観光客	◇ 補助対象事業において名松線を利用した人数	○	
				何	沿線地域に興味を持ち交流・関係人口が増える	367（千円）	現状維持	

施策の内容評価シート（令和5年度分）

151-4			効		◆		
			誰		◇		
			何		（千円）		
151-5			効		◆		
			誰		◇		
			何		（千円）		
151-6			効		◆		
			誰		◇		
			何		（千円）		
151-10			効		◆		
			誰		◇		
			何		（千円）		

※実施評価（計画どおり実施したか）…◎=計画を達成（100%以上） ○=概ね計画どおり（80%以上～100%未満） △=計画を下回った（50%以上～80%未満） ×=計画を大きく下回った（50%未満）
※事業評価（効果があったか）…◎=大いに効果が認められる ○=ある程度の効果が認められる △=あまり効果がなかった/事業完了前につき効果の発現に至っていない ×=効果を測定できない
※今後の方向性…（さらなる）拡充・充実、現状維持、見直し、廃止、完了

3 「施策の内容」の総合評価

	区分	選択区分
実施評価・事業評価を根拠とした「施策の内容」の総合評価	A 80点以上 B 60点以上80点未満 C 40点以上60点未満 D 20点以上40点未満 E 20点未満	A

4 今後の方向性

	区分	選択区分
今後の施策の内容の方向性	① 効果的な事業構成であるため、方向性を維持 ② 概ね効果的な事業構成であるが、一部見直し等の余地がある ③ あまり効果的な事業構成ではないため、見直しの余地が大きい ④ 事業構成に問題があるため、抜本的な見直し等が必要	①

※総合評価は、主な事業の実施状況（実施評価）、事業対象者への効果（事業評価）の評価をポイント化したものをベースに自動的に判定しています。
※今後の方向性は、施策の内容の総合評価および主な事業の今後の方向性をベースに自動的に判定しています。

計画期間における達成状況

年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度	令和8年度	令和9年度
総合評価	A	A	C	B	B	A				
今後の方向性	①	①	①	①	①	①				

※計画期間である平成30年度（2018年度）から令和9年度（2027年度）の本施策の内容に関する推移を示します。

施策の内容評価シート（令和5年度分）

1　計画における位置付け

政策体系	総合計画	目標	06	魅力と活力を生み出すまちづくり		
		基本政策	17	交流人口の拡大	管理コード	061748152
		施策	48	観光の振興	本冊ページ	104
	関連個別計画					
担当部局			政策財務部、商工観光部、ボートレース事業部			
施策の内容（第2次基本計画）※目指す方向性・各事業の実施により期待される効果			152	マスメディアやSNSなど、時代に即した情報発信を通じて、本市を代表するイベントへの集客、インバウンド観光やMICE誘致など、国内外からの誘客を促進し、交流人口拡大に向けた取組を進めます。		

2「施策の内容」に係る主な事業の評価（事務事業評価）

番号	事業名	担当課	事業の内容	事業の目的		事業の評価		事業の振り返りとこれから（実施評価、事業評価、今後の方向性を選んだ理由）
				効	事業の実施により直接的に表れる効果	◆ 当初の事業実施計画	実施評価	
				誰	誰のための事業か	◇ 事業評価の主な視点	事業評価	
				何	何のための事業か	決算額（千円）	今後の方向性	
152-1	コンベンション開催支援等事業	広報課	観光関連事業の振興や交流人口の拡大を図るため、市内施設を主会場に一定基準を満たした会議の主催者に対する補助	効	本市の交流人口の増加、地域経済の活性化、観光及び文化の振興等を図る	◆ 観光関連事業の振興や交流人口の拡大を図るため、市内施設を主会場に一定基準を満たした会議の主催者に対する補助	○	市内で開催された大規模な会議等に対し、補助金を交付することができた。一方で、当該補助金対象事業となる大規模な会議等は数年前から開催が決まっていることが多く、補助金が開催地を津市とするインセンティブになっていないことが明らかになった。また、交付団体が固定化してきており、新たな交流・関係人口の増加につながっていないと判断したことから当該補助金は令和5年度末で廃止した。
				誰	市内施設を主会場に開催される一定基準を満たした会議の主催者	◇ 補助金が会議開催地決定のインセンティブとなっているか	×	
				何	会議費用の補助により会議の誘致を図り、本市の交流人口の増加、地域経済の活性化、観光及び文化の振興を図る	594（千円）	廃止	
152-2	広報宣伝事業	観光振興課	観光誘客PRキャンペーン事業及び新聞雑誌広告等情報発信業務の委託	効	市内外の人々がイベントでのPRブースや津市観光協会のHP、新聞雑誌等を介して観光情報を得ることができる。	◆ 観光PRの実施回数50回以上ほか	○	新聞、テレビ、雑誌、Webメディアへの広告掲載、取材協力、情報提供を実施。若年層を中心にSNSで情報収集する傾向が顕著であることから、Web上への発信についてもSNS等を活用し実施していく。facebookフォロワー数3,107人（R6.6.5時点）
				誰	市内外の人々	◇ facebookフォロワー数	○	
				何	市内の観光イベントや観光地等へ足を運ぶきっかけづくり	13,684（千円）	現状維持	
152-3	観光誘客・情報発信事業	観光振興課	観光誘客・情報発信事業に対する補助	効	津市観光協会が、補助金を活用し、花見客への対応や情報発信を行うためのHPの維持管理を行う	◆ 補助1件	○	観光地に関する基本的（開館日、開館時間、場所、アクセスなど）情報の発信を行うことに加えその情報に係る取材や電話対応などを行っている。HPをリニューアルし、利便性が向上したことから閲覧数の上昇が見込まれる。
				誰	津市観光協会	◇ HPの閲覧数	◎	
				何	誘客活動、おもてなし活動等がしやすくなる	14,699（千円）	現状維持	

施策の内容評価シート（令和5年度分）

152-4	モーターボート競走事業	レース場への来場促進や売上向上を目的としてグレードレースの誘致を行う	効	観光施設として、全国から観光客を誘致することができ、交流人口拡大を促すことができる	◆ 入場者数：280,000	△	入場者数は185,840人と目標に達することはできなかったが、売上については過去最高額(58,878,353,500円)を記録することができた。本場入場者数は減少傾向にあることから、来場を促すためのファンサービスや地域貢献イベント等の充実を図っていく。
			誰	ボートレースファン及び津市民	◇ ボートレース津の1年間の売上	◎	
	経営管理課		何	交流人口拡大を促すだけではなく、津市財源を確保することができる	56,932,787（千円）	現状維持	
152-5			効		◆		
			誰		◇		
			何		（千円）		
152-6			効		◆		
			誰		◇		
			何		（千円）		
152-7			効		◆		
			誰		◇		
			何		（千円）		

※実施評価（計画どおり実施したか）…◎=計画を達成（100%以上） ○=概ね計画どおり（80%以上～100%未満） △=計画を下回った（50%以上～80%未満） ×=計画を大きく下回った（50%未満）
※事業評価（効果があったか）…◎=大いに効果が認められる ○=ある程度の効果が認められる △=あまり効果がなかった/事業完了前につき効果の発現に至っていない ×=効果を測定できない
※今後の方向性…（さらなる）拡充・充実、現状維持、見直し、廃止、完了

3 「施策の内容」の総合評価

	区分	選択区分
実施評価・事業評価を根拠とした「施策の内容」の総合評価	A 80点以上 B 60点以上80点未満 C 40点以上60点未満 D 20点以上40点未満 E 20点未満	B

4 今後の方向性

	区分	選択区分
今後の施策の内容の方向性	① 効果的な事業構成であるため、方向性を維持 ② 概ね効果的な事業構成であるが、一部見直し等の余地がある ③ あまり効果的な事業構成ではないため、見直しの余地が大きい ④ 事業構成に問題があるため、抜本的な見直し等が必要	②

※総合評価は、主な事業の実施状況（実施評価）、事業対象者への効果（事業評価）の評価をポイント化したものをベースに自動的に判定しています。
※今後の方向性は、施策の内容の総合評価および主な事業の今後の方向性をベースに自動的に判定しています。

計画期間における達成状況

年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度	令和8年度	令和9年度
総合評価	A	A	B	B	B	B				
今後の方向性	①	①	①	②	①	②				

※計画期間である平成30年度（2018年度）から令和9年度（2027年度）の本施策の内容に関する推移を示します。

施策の内容評価シート（令和5年度分）

1　計画における位置付け

政策体系	総合計画	目標	06	魅力と活力を生み出すまちづくり		
		基本政策	17	交流人口の拡大	管理コード	061748153
		施策	48	観光の振興	本冊ページ	104
	関連個別計画					
担当部局			商工観光部			
施策の内容（第2次基本計画）※目指す方向性・各事業の実施により期待される効果			153	三重県や周辺市町との広域的な取組をはじめ、関係団体や民間事業者との観光分野における連携の強化に取り組みます。		

2「施策の内容」に係る主な事業の評価（事務事業評価）

番号	事業名	担当課	事業の内容	事業の目的		事業の評価			事業の振り返りとこれから（実施評価、事業評価、今後の方向性を選んだ理由）
				効	事業の実施により直接的に表れる効果	◆ 当初の事業実施計画		実施評価	
				誰	誰のための事業か	◇ 事業評価の主な視点		事業評価	
				何	何のための事業か	決算額（千円）		今後の方向性	
153-1	津花火大会補助事業	観光振興課	津花火大会実行委員会の事業に対する補助	効	実行委員会が、補助金を活用し、花火大会を開催する	◆ 補助1件		◎	打上場所の南下に伴い、会場エリアが拡大されたため、多くの人に花火を楽しんでいただけた。（来場者数170,000人、令和4年度80,000人）物価高騰が続いているため花火の質を担保するには、補助の拡大だけでなく、多くの協賛金を集める手法についても事務局として考えていく。
				誰	市内外の人々	◇ 来場者数		◎	
				何	花火大会を通じて交流を深め、津市の魅力を感じていただき津市のことを好きになってもらう	9,000（千円）		拡充・充実	
153-2	津まつり補助事業	観光振興課	津まつり実行委員会の事業に対する補助	効	実行委員会が補助金を活用し、津まつりを開催する	◆ 補助1件		◎	津市を代表するイベントとして、今後も補助を継続する。（来場者数210,000人、令和4年度180,000人）令和6年度は補助金額の見直しを図ったが実行委員会から現状の津まつりを維持するには資金繰りが苦しいとの強い訴えがあり、令和7年度は再度検討する余地がある。
				誰	市内外の参加団体や来場いただく人々	◇ 来場者数		◎	
				何	津まつりを通じて交流を深め、津市の魅力を感じていただき津市のことを好きになってもらう	24,500（千円）		現状維持	
153-3	ビーチバレーin御殿場補助事業	観光振興課	ビーチバレーin御殿場実行委員会の事業に対する補助	効	実行委員会が、補助金を活用し、ビーチバレー大会を開催する	◆ 補助1件		◎	津の海をPRするレジャーイベントとして、今後も補助を継続する。多くの来場者（2,000人、令和4年度1,000人）があるものの、参加者が減少しているため、増加に向けた施策を事務局として考えていく。
				誰	ビーチバレー大会参加者	◇ 来場者数		◎	
				何	大会を通じて親交を深め、津市の魅力を感じていただき津市のことを好きになってもらう	4,800（千円）		現状維持	

施策の内容評価シート（令和5年度分）

153-4			効		◆		
			誰		◇		
			何		（千円）		
153-5			効		◆		
			誰		◇		
			何		（千円）		
153-6			効		◆		
			誰		◇		
			何		（千円）		
153-7			効		◆		
			誰		◇		
			何		（千円）		

※実施評価（計画どおり実施したか）…◎=計画を達成（100%以上） ○=概ね計画どおり（80%以上～100%未満） △=計画を下回った（50%以上～80%未満） ×=計画を大きく下回った（50%未満）
※事業評価（効果があったか）…◎=大いに効果が認められる ○=ある程度の効果が認められる △=あまり効果がなかった/事業完了前につき効果の発現に至っていない ×=効果を測定できない
※今後の方向性…（さらなる）拡充・充実、現状維持、見直し、廃止、完了

3 「施策の内容」の総合評価

	区分	選択区分
実施評価・事業評価を根拠とした「施策の内容」の総合評価	A 80点以上 B 60点以上80点未満 C 40点以上60点未満 D 20点以上40点未満 E 20点未満	A

4 今後の方向性

	区分	選択区分
今後の施策の内容の方向性	① 効果的な事業構成であるため、方向性を維持 ② 概ね効果的な事業構成であるが、一部見直し等の余地がある ③ あまり効果的な事業構成ではないため、見直しの余地が大きい ④ 事業構成に問題があるため、抜本的な見直し等が必要	①

※総合評価は、主な事業の実施状況（実施評価）、事業対象者への効果（事業評価）の評価をポイント化したものをベースに自動的に判定しています。
※今後の方向性は、施策の内容の総合評価および主な事業の今後の方向性をベースに自動的に判定しています。

計画期間における達成状況

年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度	令和8年度	令和9年度
総合評価	A	A	E	E	A	A				
今後の方向性	①	①	①	①	①	①				

※計画期間である平成30年度（2018年度）から令和9年度（2027年度）の本施策の内容に関する推移を示します。

.